

# 筑前土産考

上

庫	文	閣	内
三六	一六	三五	和
函	二八	三	書
架	冊	號	類

庫	文	閣	内
七	三五	五	和
函	二八	三	書
架	冊	號	類

内閣文庫		
番號	和	16553
冊數	28	(27)
函號	176	49



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





筑前土産考序

明治十年購求

世國は平原の地産く此饒る古原一山さく  
連り海長くあひま外記多けき江永陸の  
産之から亦去く國小腸を製此  
佳品多し海かいゆく古事新文海の玉  
ゆき是玉物なり何れも新文海の玉  
と云ふ余かつて四境なり四なり海原



く産産して思ふ其あらわぬ國のものと  
志の思ふことありきと因ちよけき出る品物  
ゆきは願名成知らぬも多けき  
くのおろ名もあけきよおろか  
かたの大略と執事なり凡産物農  
各日新状をいはく大和州ともいふ

高橋一之丞...  
 寶永六拾雨水日...  
 八十五頁...  
 信書  
 此書...  
 目録...  
 一...  
 二...  
 三...  
 四...  
 五...  
 六...  
 七...  
 八...  
 九...  
 十...  
 十一...  
 十二...  
 十三...  
 十四...  
 十五...  
 十六...  
 十七...  
 十八...  
 十九...  
 二十...  
 二十一...  
 二十二...  
 二十三...  
 二十四...  
 二十五...  
 二十六...  
 二十七...  
 二十八...  
 二十九...  
 三十...  
 三十一...  
 三十二...  
 三十三...  
 三十四...  
 三十五...  
 三十六...  
 三十七...  
 三十八...  
 三十九...  
 四十...  
 四十一...  
 四十二...  
 四十三...  
 四十四...  
 四十五...  
 四十六...  
 四十七...  
 四十八...  
 四十九...  
 五十...  
 五十一...  
 五十二...  
 五十三...  
 五十四...  
 五十五...  
 五十六...  
 五十七...  
 五十八...  
 五十九...  
 六十...  
 六十一...  
 六十二...  
 六十三...  
 六十四...  
 六十五...  
 六十六...  
 六十七...  
 六十八...  
 六十九...  
 七十...  
 七十一...  
 七十二...  
 七十三...  
 七十四...  
 七十五...  
 七十六...  
 七十七...  
 七十八...  
 七十九...  
 八十...  
 八十一...  
 八十二...  
 八十三...  
 八十四...  
 八十五...  
 八十六...  
 八十七...  
 八十八...  
 八十九...  
 九十...  
 九十一...  
 九十二...  
 九十三...  
 九十四...  
 九十五...  
 九十六...  
 九十七...  
 九十八...  
 九十九...  
 一百...

筑前土産考卷之上目錄

風古記卷之七

器用 衣服 漆 綿附

造釀類

製藥類

土石類

禽鳥類

毛鮮類

河魚類

海魚類

介類

蟲類

あつた... かく... かく... かく...

... かく... かく... かく...

... かく... かく... かく...

... かく... かく... かく...

... かく... かく... かく...

... かく... かく... かく...

筑前土産考卷之上

具原篤信鑒定

具原好古編録

器用

古之太宰府有智山正應と云... 安産圓の良西と云... 筑前國筑紫郡... 上品なり... 其の... 其の... 其の...





のふりしのもちりとも次き備へ此れを

鳥鏡 テツホウ 長波云の付糸列境色よく鏡通て松下へ福園をたらし

しは法地て地をうらふ子孫今も福園の町をうらめ候して小鏡

大鏡よりふもて張壇張よまをり

米子 長波云の付け良工善化云の筆も長波云も鏡のひのけり

善化云の唐よりてとて其法よくありて功をゆきせり水牛の

角或は海鏡の長波云も此の水牛の角とてしとて海鏡の鏡 ヒレ

の後は弱く候て用ふ小鏡は世より製の法精まき候し

此のう通そと地を兼候し其善化云の善子孫云の善子孫云の

善子孫云の善子孫云の井原を備直定内田に物と云者今も至て

良工なり正助にあらうとも此の礼り本めらるる是國のりしとて

長し唐のりる半半ら候り申すは唐の製の法なり唐ゆて

半らうと稱せん米らに候り申すも軍用は利なり

緋搦鞍 福園より製する本地の鶴と皮よく包縫候してぬり

候りて軍用は使ふなり芝草忠云のぬりめて皮通しを備へ

し名候り候り申す

蘆屋釜 昔よりけ咽も申す申す釜の里に漆物作の良工あり

之祖は元朝より傳地して上り候し其葉柄の漆飯の釜と漆て

禁中へ捧げ山麻元道極と稱せらるる本姓は左田は色ん釜釜の

山麻元道極也一は山麻元道極と稱せり世より菊の釜相め釜と

茶人の稱しともいけ釜より新色なり上は國文明茶も名義あり

とも其釜を釜とい及ぶる京の釜の釜通も釜を流し傳へり川中心

とも其功の法とあら候かの左田は色ん釜釜中其釜も入咽の

比すとも其釜を有て漆工多ありしとて後刻段も漆も傳へり

或は此法も来りて傳り申すは左田は色ん釜と云者傳きて良

工なりし其釜の漆も来りて其釜も用ひ候りし其釜京長崎



障ふしりしをさして求む新芽を移す又古の芽を分り  
若舟の園をふりて育し去佐氏之園とあり  
池田助等と傳へ此工ハ情多し多し一々古をて釜釜町とて  
之取の町とて傳へ此後那本木町も傳へ古池田等と  
傳へ但情多町竹若とて古者の取れり割りて其後竹若を古池  
田とて其の園を好くて文文十三年小籠世多氏の古池田と  
其の古池田を成長して竹若とて古池田とて其の古池田工の良  
子あり其を古池田とて其の古池田とて其の古池田とて  
一にけ古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田  
と古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田  
古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて  
竹若とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田  
唐織紡 古情多も唐織紡あり一竹若とて古池田とて古池田

ハ情多し池工の長七ナ新をて織ぬとて古池田とて古池田とて  
の下竹の下竹の形あり其の古池田の付掛町古池田とて古池田  
唐織とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田  
古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田  
竹若とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田  
情多織帯とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田  
古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田  
唐織帯古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて  
古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田  
古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田  
生絹 竹若とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田  
古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田  
古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田  
古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田  
古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田とて古池田





会部帛 近年於河部乃其村を備へて其まのり其  
りて其まのりの子御に似たり其食事なりて其まのり  
と備へて其まのり書きて其まのり前てかくい其まのり其まのり  
山猪のりかくい其まのり其まのり其まのり

秋月のりかくい其まのり其まのり其まのり  
其まのり其まのり其まのり其まのり其まのり其まのり  
其まのり其まのり其まのり其まのり其まのり其まのり  
其まのり其まのり其まのり其まのり其まのり其まのり

昔其まのり其まのり其まのり其まのり其まのり其まのり  
其まのり其まのり其まのり其まのり其まのり其まのり  
其まのり其まのり其まのり其まのり其まのり其まのり  
其まのり其まのり其まのり其まのり其まのり其まのり

其まのり其まのり其まのり其まのり其まのり其まのり  
其まのり其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり  
其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり  
其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり

其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり  
其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり  
其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり  
其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり

其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり  
其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり  
其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり  
其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり

其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり  
其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり  
其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり  
其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり其あはれり







一五十年の長湯及上方へ傳りて別名を今も製法傳へ  
くねりて阿伽陀丸といひ阿伽陀の製法はかくの如し

製藥類

阿伽陀丸 福安園寺に製し法密に守るに由り人多く習ふ願ふ  
りけりけり人の乳脈血病に此法中華の醫書に記すに  
本州細目胡椒の附りて阿伽陀丸有胡椒は凡五味と利由安園寺の  
方といひ一からん時珍云胡椒は唐伽陀園より出りけり方の名は  
るるて此法を以て唐伽陀と譯すに由り安園寺の阿伽陀  
園に胡椒あり草按之胡椒は似たり翻譯名義に阿伽陀と云梵陀  
と譯して丸薬と云一はんてきりし安園寺に唐積園を製して小  
豆の丸といひ功あり

透頂香 相傳ふ云元朝の礼部員外郎璋宗敬別号台山中華台朝之人ナリと云一高  
日あり投化せし是大元のを名けり至元年中元朝の大洲の太祖

のりて之をぬ宗敬出居候りて二子あり仕りし事と稱へ  
後光嚴院應安二年本州に傳りて傳りて文政有氣之と相  
も通一且妙方と傳りて奇薬と稱へ

將軍義満より其方と傳りて其方好しと云一其法は云に種々の  
薬を以て就中透頂香と云秘録ありしに云く宗敬の阿伽陀丸と  
云く其方多に傳りて小豆と胡椒を以て傳りて自ら阿伽陀丸と云く後  
宗福寺の字方相傳の字ありて其方と云行年七十二有餘りて  
死せし透頂香も其方と云く其方好しと云一其方好しと云一  
宗敬の字と云く其方好しと云く其方好しと云く其方好しと云く  
之く其方好しと云く又其方好しと云く其方好しと云く其方好しと云く  
阿伽陀丸上りし方と云く透頂香と云く其方好しと云く又相傳小田  
原の透頂香は小糸氏政の付外而も傳りて小田原に傳りて其方好しと云く  
今も其方好しと云く其方好しと云く透頂香と云く其方好しと云く其方好しと云く













水札鳥 大さ雀の如くまた又大さ雀の如く羽を起し一嘴は其  
れくまの同味を大さ雀の如く其の能く言ては又又其の如く  
月しく切を言ふ

都鳥 嘴は赤し白く如く大さ雀の如く又又其の如くけり

伊勢の如く小雀の如く其の如く又又其の如く

秋鶴 鶴の如く水に似て其の如く又又其の如く

ひねり小雀の如く又又其の如く又又其の如く

わくわく如く又又其の如く又又其の如く

信天翁 此の如く又又其の如く又又其の如く

いねり如く又又其の如く又又其の如く

この如く又又其の如く又又其の如く

温畫 此の如く又又其の如く又又其の如く

ねく如く又又其の如く又又其の如く

よくまの如く又又其の如く又又其の如く  
け二もまた其の如く又又其の如く

鶴 昔はけり又又其の如く又又其の如く  
さす如く又又其の如く又又其の如く

ま

方同 世は是と振と鶴の如く又又其の如く  
ハ中夏の如く又又其の如く又又其の如く

ハ鶴の如く又又其の如く又又其の如く  
さす味を大さ雀の如く又又其の如く

鷗 鴨 鵝 告天子 杜鵑 鳩 鳩 繡 眼兒 山雀 四十雀 旋目

竹鷄 奥狗 山鷄 桑 鷹 啄木鳥 けり

けり せり せり せり せり せり せり

鶴 大さ雀の如く又又其の如く又又其の如く







外、四半折にありまゝ千尋ありふらりて一志一節  
志豊村の小鍋其味尤苦し。小春よしも志ふるあり小か  
て糸一

河鱸 千尋川も宮川も流大坂川より味流鱸も勝る

河鱸と同一河鱸ハ夏の早秋杖の味ハ

山川より其秋鱸ハ似て山也名ハ苦も也山

浮て倒し遊く水てらるや一又河内てらる

かまの山川もありとせぬ川下常一地ノ所を古水は

も或ハ山ハ山申も流糸鱸も

石秘美 中川より其味ハ似て大坂より糸一糸も糸美ア有

うらひハ似て其味ハ又山ぬも

鱸美 其の流鱸の味ハ似て山川も糸一又糸も糸川も

河内收 糸ハ肉糰ハ

杜父美 此地の信氏の方々に云くは杜父美の事なり

近江の川も多し其味ハ似て山川も糸一

うらひ 細美なる杜父美ハ似て山川も糸一

て味美なる山川も糸一

鱸絲美 川より其味ハ似て山川も糸一

有らぬ川も多し其味ハ似て山川も糸一

鱸美 那河川早良川も其味ハ似て山川も糸一

多く強し上り下りも其味ハ似て山川も糸一

糸交りも多し其味ハ似て山川も糸一

鱸 其糸多し

鱸 又糸多し

鱸 又糸多し

鱸 又糸多し









十何年以来越世矣かーけりるは後人わしとてしるべしとて美  
家よるるるる

海鏡鱒 カニホコ うりきりし似あり肉糲く

吸りけ敷多し下にちらるのふさふさの形好く其腸を信

了物伸る母後固皮も多しつりしきもたすのふさふ

似たり

さおろりそ又吸りの形ありぬるのふさふさし

いふきりてさりてさり又硬湯で煮てさききりて味

少く食ひて化ぬるさりの形は皆信年より其の秋なりなり

海魚なりそ又吸りの形好く其軟さちた似て種々取大す

てかきりて其大魚の二三人ものちのちの色はさきと交り

てぬるりさりてそ軟く煮てけ美極く收結くりて死

りてしきばしそき行りけむの松揚節を切て後す肉信

動く相合き法ぬる同くさりて食ひて味はさき

あり海魚とておきりて之れけき死

比目矣性味とていふるそ木の葉のまじりて比目矣

の別種と疑ふ矣ありけりしおきりて

目張 赤白二種あり味又別ありさりてさき目張

と名種くりて之れ味目張より

織 性味とていふる病人食ふべし種あり

岸り青く毒あり

いふるは其れをぬりて首少なり長二人より大は

似あり

文様矣 ちり多しそ性ありからる右の外海魚多し揚

魚の

魚類







中々大勢あり大々螺の大きき種を仲物と云味ハ小なり及リ  
辛螺 大なりなり赤なり甲は白く入替て産の葉とてか  
てかきき

甲貝 赤く年似たり共一  
光螺 赤く味は白なり

海嶺 赤く味は白なり  
海嶺 赤く味は白なり

海並 海並と多し合ふと多し  
海並 海並と多し合ふと多し

海並 海並と多し合ふと多し  
海並 海並と多し合ふと多し

海並 海並と多し合ふと多し  
海並 海並と多し合ふと多し

海並 海並と多し合ふと多し  
海並 海並と多し合ふと多し

海並 海並と多し合ふと多し  
海並 海並と多し合ふと多し

海並 海並と多し合ふと多し  
海並 海並と多し合ふと多し

海並 海並と多し合ふと多し  
海並 海並と多し合ふと多し

海並 海並と多し合ふと多し  
海並 海並と多し合ふと多し

海並 海並と多し合ふと多し  
海並 海並と多し合ふと多し

海並 海並と多し合ふと多し  
海並 海並と多し合ふと多し

右の外見類多し  
右の外見類多し

虫類

蝙蝠 定元の内多し 新中下中郡大島村の大元の内

多し 夏の夜に多く 蚊 新中下中郡大島村の大元の内

蟻 新中下中郡大島村の大元の内

川守美川 新中下中郡大島村の大元の内

金亀子 新中下中郡大島村の大元の内

蟬 新中下中郡大島村の大元の内

化咽中 新中下中郡大島村の大元の内

虫 新中下中郡大島村の大元の内



